

IWCCジョイントミーティング・総会 国内初の同時開催

電線や伸銅品など世界の銅加工業を代表するIWCC(国際銅加工業者協議会)が5月13日、東京都千代田区のホテルオークラで、ジョイントミーティングと総会を開催した。総会は2008年の京都以来、ジョイントミーティングは1997年の神戸以来16年ぶりの日本開催で、国内初の同時開催となった。世界の銅加工業者と生産者(鉱山と製錬)が、銅産業を取り巻く課題や今後の成長策について2日間にわたり活発な討議を行った。ミーティングを通じて意見交換を行うことで相互に理解を深め、共通課題の解決に取り組んでいくことが狙いだ。経済産業省菅原副大臣の歓迎挨拶の後、16のプレゼンテーションが行われ、300人強が参加し、これまでで最大規模となった。また15日午後には今年の運営計画を決定する総会が開催された。

◆世界の銅加工業をまとめるIWCC

IWCCは1953年に銅加工業を代表する団体として設立され、会員同士の情報交換や他の産業組織との交渉など業界の発展において重要な役割を担ってきた。16か国の銅・銅合金加工業界及びコーポレートメンバー19社で構成される。参加企業は150社にのぼり、世界の銅需要の約8割をカバー。日本では日本伸銅協会と電線大手企業がカウンターパート JWCC(日本銅加工業者協議会)を組織して活動している。

IWCCの活動の幅は非常に広域で、中心的な活動である年1回のジョイントミーティングでは銅加工業者と鉱山・製錬などの産銅業が参加。市場関係者やエコノミストもそれぞれの専門分野について講演する。会員企業の技術レベル向上にも注力しており、毎年テクニカルセミナーを実施。



松本正義会長



マーク・ラベット事務局長

溶解や冷間圧延など加工工程ごとのテーマを取り上げて高度な技術を世界の銅ユーザーに普及させている。そのほか銅地金取引やリサイクルなどの課題に加工業者の観点から意見を発信する銅委員会や、世界の銅需要などのデータを取りまとめて会員に提供する共同需要予測グループなどの活動がある。

銅加工業が直面する近年のテーマとしては、銅価格の乱高下と中低圧電線がアルミに置き換わるなどの他素材への代替がある。

ジョイントミーティング閉幕後、松本正義会長、マーク・ラベット事務局長らが記者会見を開き、松本会長は「代替のペースが速まっており、可能性としては銅需要全体のある比率がアルミに替わる脅威にさらされている。銅のポジションを守るためには代替への対応と新たな領域の開拓が重要になる。銅には導電性や熱伝導性、殺菌性などの特性があり、今後は銅の発揮できる価値を考えていきたい」とした。

またラベット事務局長は「代替リスクはあるものの、米国で需要が回復することなどから、2013-14年の銅需要は1980万トンから2100万トンまで増えると見ている。需要家の代替シフトには、コストだけでなく技術面や物質特性など複数の要因が絡む。まずは代替が進む理由を理解し、銅の強みだけでなく代替材料の弱みもしっかり把握することだ」と語った。

トピックス

TOPICS 1

銅の昆虫たちに熱視線 —夏休み子ども見学デー開催

経済産業省では、去る8月7日、8日の2日間、霞が関で、毎年恒例の「夏休み子ども見学デー」を開催した。

銅のコーナーでは、銅の特性にまつわるクイズ、特性をわかりやすく説明したパネル、ヒートポンプ式給湯器に使用される高強度銅管など、多彩な展示を行った。とくに今年初めて出展したカブトムシ、カマキリ、バッタなどの精緻な“銅の昆虫たち”には、子どもたちの驚きの目が注がれていた。



定時総会 日本銅センター賞表彰式を開催

(一社)日本銅センターでは、去る5月29日、コートヤード・マリオット銀座東武ホテル(東京中央区)において、定時総会および理事会を開催し、下記の通り役員を選出した。

- 新任 会長 矢尾 宏 ・日本鉱業協会 会長
三菱マテリアル株式会社 取締役社長
- 新任 副会長 吉田 政雄 ・一般社団法人 日本伸銅協会 会長
古河電気工業株式会社 代表取締役会長
- 留任 副会長 高橋 秀明 ・一般社団法人 日本電線工業会 会長
日立金属株式会社 執行役員副社長
- 新任 専務理事 亀井 隆徳 ・一般社団法人 日本伸銅協会 専務理事

また、同日同会場において第40回日本銅センター賞授賞式を開催した。受賞者は次の通り。

- 一般社団法人 日本伸銅協会 規格委員会 第三分科会(管)
〈需要の大きい冷凍空調分野で高強度銅管の開発、規格化、法令対応を推進し、特にヒートポンプ式給湯器での採用拡大に貢献した。〉
- 東洋フイツテング株式会社 取締役社長 木村 博政氏
〈銅製ワンタッチ式継手は、金属管の施工面での難点を解消して配管施工を容易にし、銅管の配管・継手の採用促進に貢献した。〉
- 東日本旅客鉄道株式会社
〈東京駅丸の内駅舎復原工事で歴史ある建造物を創建時の姿に戻すという基本方針のもと、外観部分に100トン近い銅板材を使うなどの実績を残した。〉
- 東京駅丸の内駅舎保存・復原工事共同企業体(鹿島・清水・鉄建建設共同企業体)
〈東京駅丸の内駅舎復原工事において、当時の仕様書にもとづいて創建時に近い工法を採用して工事を実施し、伝統技術の継承に寄与した。〉



矢尾 宏新会長



日本銅センター賞受賞者

TOPICS 2

木材の腐朽を防ぐ、銅の抗菌性

天然素材として、ますます人気の高まる“木材”。しかし、ウッドデッキなど、屋外で使用される場合、腐朽対策は避けて通れない。そのひとつの解決策として登場したのが、薬剤に銅を使用した“加圧注入技術”。高圧で銅化合物を含んだ薬剤を木材内部に浸透させ、腐朽やシロアリに強い木材に仕上げる技術だ。注入される銅化合物の抗菌性によって、半永久的に防腐効果を持続できる。

また、(株)スペースウッドでは加圧注入した木材の施工に際して、銅メッキを施したくぎを使用している。くぎを打ち込んだ箇所からの雨水侵入は防止できないが、くぎから溶け出す銅イオンの効果で防食効果を高めるよう工夫を凝らしている。

(株)スペースウッド <http://www.spacewood.co.jp/>



編集後記

この時期のご挨拶は、「今年の夏は暑かったですね」というのが定番になっていますね。今回は、暑い夏の暑い下町の祭りを取材しました。表紙の写真も鳥越(とりこえ)神社の通称千貫神輿です。写真を撮るため、お神輿の順路を歩いてポイントを探したのですが、中々見つからず途方に暮れていた時に、手作り傘の老舗

の方から「家族が一緒ですけど内の二階を使って下さい」と声をかけていただきました。下町の人情に感激した取材でした。ありがとうございました。

編集デスク 竹中 俊一(日本銅センター)



情報発信委員会

〈委員長〉野田哲也((株)フジクラ)
〈委員〉鉦山/塚本弘之(三菱マテリアル(株))、
鏡原俊一(パンパシフィック・カッパー(株))、
永田禎彦(日本鉱業協会)
伸銅/笹岡公二((株)神戸製鋼所)、磯部剛
(古河電気工業(株))、谷敬三((一社)日本伸銅協会)
電線/大木啓一((一社)日本電線工業会)、
((一社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二